

滝の茶屋の志貴皇子歌碑建設

田中正郎
〈垂水歌碑建設委員会〉

石走る垂水の上のさわらびの
萌え出する春になりにけるかも
志貴皇子の御歌(万葉集卷第八)

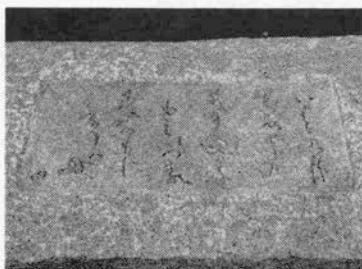
の煉瓦造りの真ん中に白いコンク
リートを使って滝に見立てられて
いるのに驚きました。

垂水の滝の茶屋に高田屋さんと
言う古い酒屋さんがあります。
野網さん兄弟が城が山と泉が丘
にそれぞれ大きな店を構えておら
れる。昭和十五年に、野網さん兄
弟の親父さんが酒屋さんを出され
、その後その敷地内にアパート
を建てられ眺めがよいので、五州
園と名付けられた。その五州園の
後に立派なマンションを建てられ
神戸市住宅供給公社を通じて、賃
貸に出された。分譲マンション並
の立派な住宅なので話題になり、
新聞にも大きく取り上げられまし
た。そのマンションの角に昔の滝
の茶屋の滝を偲んで、万葉集の志
貴皇子の有名な“石走る垂水の上
のさわらびの萌え出する春になり
にけるかも”の歌の歌碑を建てら
れ、市民の憩いの場を提供されま
した。歌碑の設計は竹山清明先生
があたられ、しかも建物の屋根は
さわらび色の銅板で葺かれ、褐色

くあり、いつも水が滴っていてこ
れが垂水の地名になったと言われ
ています。大昔の山陽道は、須磨
の関所より北に向かい、多井畑
名谷を経て明石へと通じていまし
た。しかしこの間にか多井畑か
ら塩屋を経て、淡路島の見える景
勝の地の垂水、舞子を通るように
なりました。源平の合戦以後は、

一の谷の難所も通れるようにな
り、現在の山陽道になったと思わ
れます。特に東垂水のあたりは滝
があり、紀州、淡路島も見え、茶
屋が出来て、滝の茶屋と呼ばれて
いました。滝の名前も駒捨の滝、
琵琶が滝、恩地の滝、小町の滝、
白滝などと呼ばれ、明治の中頃ま
では旅人がこの辺りで滝の水を飲
み、冷たい水で体をぬぐって休ん
でいたそうです。大正年間、鉄
道の敷設にあたり、大きい二本の
滝は取り壊すことが出来ず、鉄道
の下をくぐるかたちで残されました。
現在、山陽電鉄、西日本旅客
鉄道の下をくぐって小さい流れと
なっています。

志貴皇子の歌にある垂水の地名
は当所の他に、吹田市の垂水など
が挙げられていますが、神戸の垂
水に住んでいた私達はこの景勝の
地にあった滝を歌われたものと確
信しています。海から見た滝の茶
屋の滝は見事な滝で、舟を岸に着
けて一休みしたとの古老の話も伝
わっており、東垂水の名所になる
ことを期待しております。



完成した歌碑



なぜか神戸に足がもどる

藤江俊彦

<株式会社モト法人大外商部
営業開発担当課長>

一昨年の秋まで神戸に約四年間勤務した。このときが神戸暮らしの初体験だったのに、なぜか愛着ひとしおで、東京本社にもどつからも、おおむね月一回ぐらいのペースで週末を神戸で過ごす。家族もここを離れたがらないし、時々味わう脱東京感覚や独得的魅力が、つい足を神戸にもどすのだろう。その魅力は風景や街のイメージもあるのだが、在神中、会社の外で多くの友人、知人を得ることができたのが一等おおきなものとなつているようだ。

神戸を“真珠の街”としてPRキャンペーンをしたPCK（パル・シティ・コウベ）推進協議会のお仲間に入れてもらって、同年代や若い方と共に活動したのは忘れない。タカハシ・パールの高橋洋三副社長のリーダー・シップのもとに、いわば神戸式のプロジェクトの進め方を見習うことができた。

もう一つは私が昭和六十年にくつた神戸社内報研究会が思い出深い。

かつて長年やったキャリアをもとに地元数社の担当者に呼びかけ、主宰者としてスタートした。

毎月一回の定例会を確実に開き、やがて三〇社を越えてきた。

しかしいずれ私も転勤するだろ

うから、と会則をつくり、事務局を他へ任せして組織化を進め、レールを敷いた。やがて一昨年に本社広報宣伝課に転勤し、その後は社内報も管轄なので続けていたが、法人事業部門への転属にと

もなって会長を辞め、地元メンバ

ーにお譲りした。自費で会合のため東海道を往復するのは経済的にも、時間的にも無理があるからである。研究会はいまも続いている。

さて神戸が恋しくなるもう一つ

は、グルメをエンジョイできることである。世有名なステーキもそうだが、台湾や北京等の中華、インドなどの世界各地の本物の味をはじめとして、明石から入るフグや海鮮もフレッシュだし、明石焼といわれる出汁をつけて食べるタコ焼が楽しみでしようがない。

東京にも世界各地の料理はあるが、アレンジしてあつたり、値段が高すぎるのあまり行かない。

神戸も最近は高層ビルがふえ、コンベンション・シティ化が進んでいる。しかし異人館に代表される。むかし乍らのオシャレな街並はこわしてほしくない。道を歩くと誰か知ってる人に会うようなゆつたりとしてまとまりのある、そんな神戸が残る限り、足は神戸にもどつてゆくと思う。



神戸のKFMのショーで活躍していた藤江さん（前列左）

女たちの群像――時代を生きた個性

田中ひな子

（作家）



これは先に出た『黎明の女たち』第二集である。

世にさきがけて事を成しとげた人物といふのは、どこか他人をひきつけにはおかない個性があふれていて、ひとりひとり起伏に富んだ人生を歩んでいた。とはいっても、そこにはやはり書き手との相性のようなものがあるらしく、誰がどの人物を手がけてもよいというものもあるまい。伝記にしろ伝記的小説にしろ、まず書き手がその書くべき人物に興味を持ち資料を読みあさり、ぐんぐんひきつけられて夢中になり、まだどこにも書かれていないことまで掘りおこしたくなつて縁者や知人を探し歩き、ゆかりの地を訪ねるそして書いてはじめて、「ひょうごの新女性史」として出せるのではないか——ということ、今回は前にも増して全員が、取材をころがけた。

「兵隊おばさん」として知られていた沢野糸子（執筆者・島）が調べるにつれ、一般に考えられていたのとは大きく異なる人物像を



お祝い会で喜びの挨拶をする田中さん

現わして来たり、今回とりあげた六人の女性の中では最も早く生れた山田淳子（執筆者・山本）の中に、カルチャーセンターを意欲的に遍歴する現代の主婦に通ずるもの

が見えてきたりで、面白い。川端千枝を選んだ三田地は、短歌結社に属していた体験を生かして、この女流歌人にとりこんだ。保育事業の先駆者間人たね子に関心を寄せた駒井は、戦後カトリック系幼稚園の設立に骨折った時期があ

る。親和の創立者友国晴子に興味を抱いた柏木は、かねてより同校出身の友人達を通じて校風に接して心ひかれおり、また自らもかつて教育者を志したこともあるが、その思いがこの仕事につながった。ピアニスト廣田美須々（執筆者・田中）は、幼時からピアノに親しんできた筆者が、ぜひその苦難の生涯を掘り起してみたくなる存在であった。近年のピアノ人口の急増や日本人の国際舞台への進出ぶりを見るにつけても、その礎を築いた先駆者の一人として注目したのである。

それぞれの動機が異なるように作品の形式も、小説風、ルボ風、伝記風と自由だが、第一集と同様とりあげた女性の生年順に並べてある。できるだけ沢山の人々に会い、手に入る資料は全部目を通して時代背景などにも照らしてみて可能な限り歪な像を結ばぬよう努力はしたつもりである。

（「あとがき」より抜粋）

デザイン博と名古屋

米花 稔

（神戸大学名譽教授）

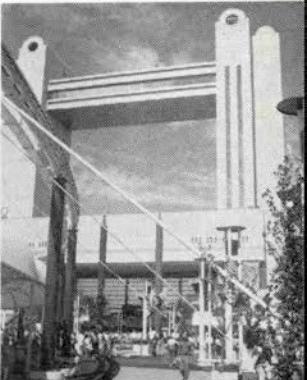
九月はじめキワニス・インター
ナショナル日本地区第一三回大会
が名古屋で開催され、メンバーで
たまたま神戸の会長である筆
者も参加した。席上來賓の愛知県
知事鈴木礼治氏は、二一世紀はじ
め万国博覧会の誘致を目指して、
新国際空港、東西のリニアエクス
プレス、第二幹線高速自動車道の
三点セットにとりくんでいると挨
拶があつた。名古屋市長西尾武喜
氏は、あるテレビタレントの名古
屋は「ダサイ」というのに対応して、
各地のやきもの、有松鳴海絞染色
などの伝統工芸から、現代の自動
車まで、デザインの本拠として、
いま世界デザイン博の開催でイメ
ージエンジを訴えられた。キワ
ニス大会でも、有松鳴海絞染の藤
澤信三氏（七〇才）に日本キワニ
ス文化賞を贈呈したところであつ
た。

この機会にデザイン博白鳥会場
に足をのばした。新恒久施設「白
鳥センチュリー・プラザ」をテーマ
館とし、人間の歴史はデザインの
歴史として、発想とデザイン、技
術とデザイン、生活とデザイン、
屋城会場で、日本の千利休と西洋

夢・未来とデザインと展示がひろ
がる。外国館の各国のデザインの
展示も印象的であった。筆者も神
戸が昭和四八年ファッショントー^ト
宣言して以来、デザインに関心を
もちつづけている。筆者はかね
て、デザインは、人びとの仕事と
生活ならびにその場という万般に
わたり、経済と文化、技術と文
化、理性と感性などの接点の中心
課題として心ひかれている。それ
だけこの博覧会に関心をもつてい
たが、一般にはこのテーマを限定
的に思はせてか、入場者は予測よ
りやや下まわっているようであ
る。

それにしてもデザイン博という
ので、まちの表示も眼に見えて配
慮せられて見やすく美しくなりつ
つある。一〇月には第一六回「世
界デザイン会議」が、京都以来一
六年ぶりにもたれているという。
そして今まで忘れられがちの堀川
も、名古屋の母なる運河と見直さ
れはじめている。他の博覧会より
継続的波及効果がより大きく期
待されそうである。ついでに名古
屋城会場で、日本の千利休と西洋

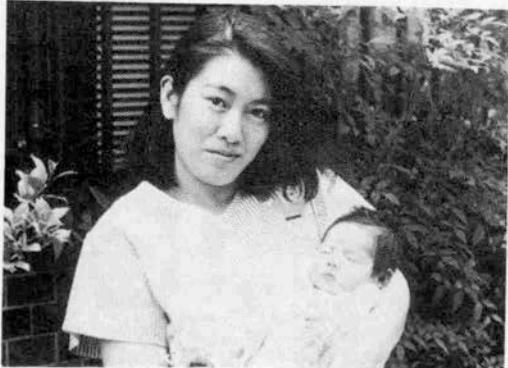
盛況の会場風景▶





佐本
産科

ママといっしょに



赤ちゃん：岡 奈津美ちゃん（平成元年7月11日生）

ママ：尊子さん 兵庫区在住

「ほがらかに、そして素朴に育ってほしい。
早く親子でショッピングがしたいなあ。」

★佐本産科・婦人科★

佐本 學

神戸市兵庫区中道通4-1-15
☎575-1024(病室☎576-9639)

市バス上沢4停南スグ

実験交流サロン

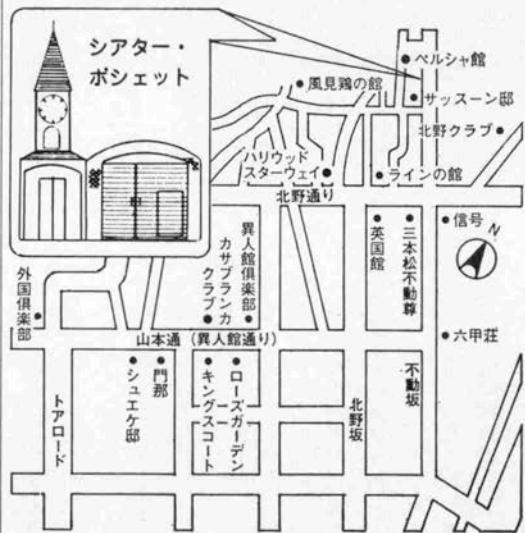
シアター・ポシェット

11月の公演

12日 軽音楽コンサート・パイ投げの会
13:30~ (有料)

19日 ピアノ／エレクトーンの会
13:00~ (有料)

26日 音の舞・オータムコンサート
14:00~ (無料)



★シアター利用のご案内

- 曜日、時間 / 土、日曜日 (通常) AM10:00—PM8:00
- 費用 / ホール設備の使用無料。光熱、空調、管理費のみ実費
- 付帯設備 / グランドピアノ・エレクトーン・録音、音響機器、ミキサー、照明コントローラー、テーブレコーダー、マイク、映写機等
- お申し込み、お問い合わせ
そごう前センター街東南角、さんちか入口
〒650 神戸市中央区三宮町1丁目5-1 住友銀行ビル6F
佐本小児歯科 佐本進 ☎331-6302~3

サル知恵・ヒト知恵

三枝和子（作家）　え・元永定正

先だって愛知県犬山市にある京都大学靈長類研究所から二頭のチンパンジーと一頭のオランウータンが、オリを破って、ではなく、カギを開けて脱走したというニュースがあつたとき、我が家は大いに湧いた。

我が家ではクーデター失敗のニュースや何とかの汚職事件、などが報道されていても、みんな白けてフーンという顔つきだが、このてのニュースになると、ガゼン目を輝やかす。おまけにアキラ君が、最後にお寺の二階に逃げこんだ、というところでは拍手喝采。

「お寺へたてこもるやなんて、頭ええ。絶対、殺生はされへんと思たんやろか」

「駆けこみ寺のつもりやで」

ワイワイ、ガヤガヤ、勝手にヒト知恵を振り回してたら、その二、三日後だつたか、新聞にサル学者の河合雅雄先生のインタビューが出ていた。

河合先生は、京都大学靈長類研究所に二十年在職し、所長も務められたが退職、現在はその隣りの日本モンキーセンターの所長さんである。インタビューは先生のお宅の犬山市で行われたらしいが、もちろん脱走事件とは関係ない。事件より何

日か前のことと、「向き合う人生」というシリーズもので、奥さんとご一緒に歩いて来られた人生についての、さまざまな話題が眼目である。

河合先生、などと親しそうに呼ぶが、私は一度、遠藤周作氏を中心とする作家や評論家たちの研究会で同席させていただいてお話を聞いた、くらいの間柄だが、先生の弟子と飲み友達なので、ついつい親しい気分になってしまふのである。

この弟子は（弟子と言つても大学の先生であるけれど）十年近く河合先生の許でアフリカヘンパンジーの研究に出かけていた経歴の持主だが、いつも話がとても面白く面白い。私がとんでもない質問をしても、ちゃんと真面目に考えて答えてくれる。

とんでもない質問、というのは、たとえばサルに売春はあるか、みたいな質問である。

そうですねえ、と彼は考えこむ。バナナや木の実なんかをメスに差し出して関心をかう奴はいますが、これは売春ではありませんねえ。メスがバナナや木の実をくなきや交際してやんないよ、みたいな振舞いをしても、これも売春ではありませんねえ。誰か後ろに別のサルがいて、メスから

バナナを取りあげるためにオスにバナナを持って

来さすときはじめて売春が成立しますが、お互
い発情期に、そんな悠長なことやってられませんか
ら、やはりサルには売春はありませんねえ。と言
つた具合である。

そう言えば、河合先生の物の言いかたも、とて
もよく似ていて、その研究会のとき、一時間ばか
りサルのお話を聞いて、いよいよ質問、という段
取になって、遠藤周作氏が、ちょっとと思いつめた
顔で発言なさった。

「と言うことは、サルには父親がない、と

「父親？」

河合先生は平然たる口調で、

「そんなものはありません」

「しかし、ボスは……」

「ボスと父親は別です。父親を存在させているの

は人間だけです」

「はあ、ナルホド。当たり前のことだけれども、き

ちんと言われてみると、家父長制度、などという

人間のつくり出したルールがおぞましく思えて來
る。しかし人間にもつとも近いと言われるチンパン

ジーの類いには父系の群れもあって、そこらあたりの研究は、まだまだ、これから、だとのこと。

それと関係があるのか、どうか。件のインタビュード先生は、自分がサル学をやる目的について、「僕は病気のため出征をまぬがれたが、あれほど

の残酷行為ができた人間の不思議さ、とくに『悪』とは一体何だろう。非常に関心があった。人間が内包する悪の起源を探るため、サルから人間への進化を考え、人間の存在の基底部を明らかにしたいのです」

と発言されていた。私は感動した。へえ、そうだったのか。

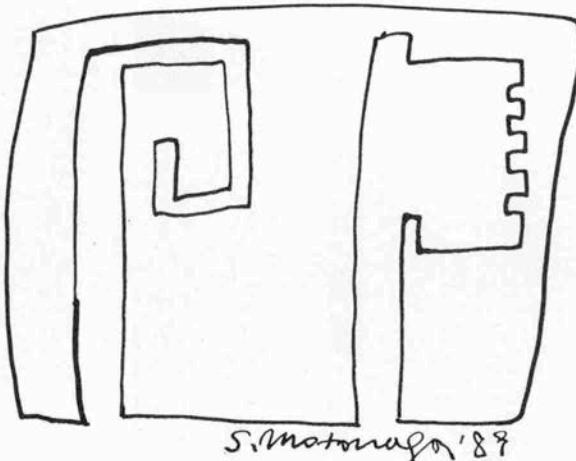
ここで私の感動ついでのとんでもない思いつきを言うと、「悪」と「知恵」と「父親」は不可分の関係にある、三位一体だ、ということである。

もつとも河合先生にこんなズサンな思いつきをぶつけることは、おそれ多くてできないから、例によつて弟子だ。今度飲み屋で出合つたら、からんでみよう。

「悪」と「知恵」が関係あることは分りますよ、しかし、どうして「父親」なのかなあ、と撫然たる顔をするにきまつている。

「ゼッタイ『父親』を省いちゃいけないわ。もしかしたら、それが根源かもしれない」

そう言ってやろう。彼は、父親というのは人間のオスが発明したものだと思っているが、私は父親とは、怠け者のオスを働かすために、人間のメスの深知恵・悪知恵が発明した役割だと考えていいからである。



S.Motoroaga '89

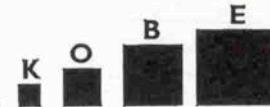
演

劇夜話

ASA 素人劇団 ミュージカル

前田 和穂

〈建築家〉



世界はすべてお芝居

男と女とりどりにすべて役者にすぎぬ
登場してみたり退場してみたり

シェークスピア 阿部知二訳
お氣に召すまゝ 第二章第七場

私はこの一節が好きである。この短い文章の中から、人間のあらゆる場面が想定出来るからだ。観客の立場と演ずる側との差はあれ芝居を通じて人間を語ることが出来るとは何と素晴らしいことか。然し観る側ばかりではなく、時には演ずる側に立ち、観客を見るのもまた面白いに違いない。人間誰しも変身願望を持つものであるが、私もまた変装は得意中の得意、それも舞台の上で自己表現出来るとは。こう思い立ち、人の紹介もあって、ASAミュージカルの一座に加えて頂いたのである。この一座は西宮に住む主婦、下平朝子氏を座長とし、医師、弁護士、会社重役、サラリーマン、主婦、OL等の全くの素人劇団だが、演技指導を宝塚のM先生が担当、毎年一回、芦屋のルナホールで公演を行っている。公演の四ヶ月程前から練習に入るるのであるが、多忙な座員のため、

一同揃って練習に打ち込めるることは難しく、中には本番の当日、にわかに現われ、「あの人何の役するの」と言われる迷優も居たりして、結構ハラハラさせられる一座である。公演の度毎に演技が上達とは言い難いのだが、観客は年々に増え、今年は広いルナホールも満席の有様、誌上を借りて御来席のお客様に厚く御礼申し上げる。

さて、私は昨年12月24日公演のミュージカル『カルメン』に初登場。盗賊の親分『ダンカイロ』役で出演した。カルメンは座長の下平氏、ホセは素晴らしいテナーアーティストの鈴木氏、エスカミーリョは『はや』専務の速水宣二氏の壮々たる振舞、皆舞台度胸は場数を踏んでいる大スター揃い。衣装は自前であるから、私は肥つてもう着れなくなつた昔の青い背広の背中を半分に切つて袖付ボレロ風にし、ズボンを膝半分切つて闘牛士風ズボンに改造し衿には金のスパンコールを縫い付け、一ヵ月前よりこの日のために伸したコールマン髪で何とか、にやけた盗賊の親分に変身。リハーサルの時には衣装間に合わず、本番当日着用したのだが、「前田さんの格好が一番素敵やワ」との座員の賛辞。長田高校の同窓会の席上、「カルメン」に出演する話をしたところ、昔の悪友ども



ASAミュージカル連絡先
☎731-3931 前田和穂迄

が垂幕持つて応援するぞと客席の中央に陣取り、「前田頑張れ」の大合唱、三宮の「テディボーキ」のママがステージに花束持つて走つて来るやで一騒動、お陰で台詞もトチるし、舞台の上は少々混乱したものの、客席の方はお上品ムードの芝居の空気が一変し、和やかになったとか。村芝居の面白さは、観客と出演者の掛け合いにある。素人劇団の存在は学芸会のような緊張感よりも村芝居的和やかさが出せねばそれだけで良いと思う。更に適当なアドリブや知的なギャグが出せればもう最高である。舞台俳優が台本通りの台詞を言うのは当たり前のことだろうが、私は出来るだけ時局に合つたギャグを入れることを考えている。その方がもっと芝居を楽しくするからだ。去る9月30日。「マイフェアレディ」にイライザの飲んだくれの親父役で出演する。



カルメン

イライザには京都の七軒茶屋の芸妓の梅香さん。彼女は若いし小唄で鍛えた声に張りがあり、その上美人をしている。大柄で舞台度胸も大したものだ。私はタップを踏む場面があるのだが、練習してもリズムに乗れないのを苦労したが、炭坑節の振りで何とか合うことを発見。本番でうまく行つたかどうかは無我夢中のことで定かではない。何ヵ月もこの日のために練習に励んで、積り重つたストレスを、たった二時間余りで燃焼し尽す快感は贅沢な道楽に違いない。腹からの発声で台詞を述べることは健康にも良いし、観客に訴える表現方法を学ぶことも実生活に役立つ。日頃仕事に明け暮れ、ビジネスの世界だけに生きると人間、視野が狭くなる。人生の最後に何も残らないとしたら何と悲しいことではないか。時間とは仕事だけのためばかりでなく、自己のパーソナリティを活かす生活のためにもあるのだと思う。

舞台の上に立つことは楽しい。一度演つたら止められない。読者の有志よ。貴方も仲間に入りませんか。



マイフェアレディ

特集／美術の秋< I >
神戸市制100周年記念特別展

松方コレクション展

—いま甦る夢の美術館—



ラングラン「松方幸次郎肖像」

越智裕二郎

<神戸市立博物館学芸員>

和37年以来の松方コレクション展を鑑賞した。

■「よく集めてくれました」とライシヤワー夫人
1989年9月13日展覧会の一般公開に先立ち、関係者を集めて「松方コレクション——いま甦る夢の美術館——」展の内覧会を行った。神戸市長をはじめ、松方家の御遺族、ライシヤワー夫妻（ハル・ライシヤワーは幸次郎の姪）、松方コレクションの寄贈返還の際誕生した国立西洋美術館の館長前川誠郎、神戸新聞社社長など、当日の強い雨について約500人が集まり、神戸では昭

戸新聞社社長の挨拶に引き続き、幸次郎の娘である松方為子氏が父の思い出を述べ、最後までフランスに残したコレクションを気にかけていたことや、仕事一途な彼のワシマンぶりについて話したことが印象的であった。最後をしめくくつたハル・ライシヤワー夫人は幸次郎が神戸新聞社社長であったが故にジャーナリストとして先輩であり、常に尊敬をしてきたこと、また時代を先取りする

国際人であつたことを強調した。

テープ・カットは市長、神戸新聞社社長、松方為子女史、ハル・ライシャワー夫人、神戸市立博物館館長により行われ、そのあと幸次郎が果たそうとして果たせなかつた共楽美術館の模型、ブランディングの描いた幸次郎の肖像画からはじまつて、三々五々フランス近代絵画、イギリス美術やその他のヨーロッパ絵画、ブランディングの画業、松方幸次郎関係資料など総数200点を越える展



松方為子女史（左から二人目）ハル・ライシャワーさん（右はし）ら、一族の方々が出席しての内覧会。
写真はテープカット風景。



ライシャワー夫妻。ハル夫人は松方幸次郎氏の姪にあたる。

示品を見てまわつた。為子女史はあらためて父が行おうとした美術館の中身がわかつた気がするというコメントを残し、ハル・ライシャワー夫人はよく集めてくれました」というコメントを残して、その後一行は神戸新聞社が主催した松方一族の会に向かった。参観者の感想はおむね好評であったようと思う。この松方家の御遺族の言葉は、展覧会の当事者にとって何よりの大きな慰めであった。この松方コレクション展

■ 幸次郎と神戸

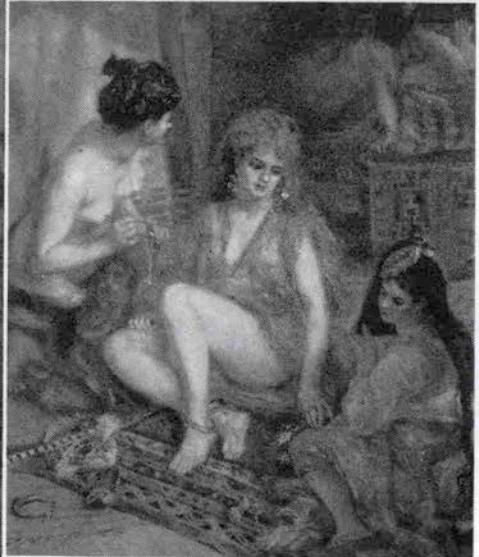
は一朝一夕にできあがつたものではない。神戸市制100周年の記念事業として松方コレクション展の企画があがつてから既に3年以上の歳月が流れたが、展覧会の常識からすれば、幻といわれる旧松方コレクションという作品の全体、概要が不明であるものに手を出すのは勇気のことであった。展覧会であれば研究だけではすまない。実際に絵を集めてこなくては展覧会にならないのである。しかし市長の決断により、神戸市はこの事業に着手したのであった。

松方コレクションは日本における西洋美術の受容を語るには欠かすこととはできないものである。昭和3年に散佚してしまったとはい、その散佚していく過程のなかでかえって西洋美術の普及がみられたのも事実であるし、昭和34年にこのコレクションの一部が寄贈返還されたあとしばらくは、日本最大の西洋美術コレクションとして、とりわけそのフランス美術は多くの人を魅了してしまった。しかし当時は世界の三大コレクションの一つと騒がれながらも蒐集から散佚までの時間があまりにもはやかつたため、コレクションの作品リストも残されず、全体像も把握できていないのである。しかも最近は次々に西洋美術の展覧会が開かれ、海外へも気軽にいけるようになって、急速に松方コレクションの名は薄れてきた。コレクションに関わった人たちも鬼籍にはいついかれようと/orする今、このコレクションの調査をしておかなければ、永遠に松方コレクションは幻のままで消えてしまう。松方幸次郎と深い関わりを持つ神戸市が市制100周年の記念事業に松方コレクションを選んだのもこの危機感からであった。そして多くの関係者の御協力により、松方コレクションの概要や判断するかぎりにおいての数を、展覧会を機に明らかにしたことはまさに幸運であり、喜ぶべきことであった。松方コレクションはようやくその幻のヴェールを脱いだといえるし、ここに松方コレクションの正確な評価ということとも、はじめて可能になったといえるのである。この展覧会は美術史にも大きな貢献をしたということもできよう。

■ 松方コレクションと松方幸次郎を切り離すことはできない。松方幸次郎は明治維新の元勲正義の三男として生まれ、青年時にアメリカへ留学、最初、維新政府と深い関わりのあったラトガーズ大学、のちにエール大学に入つて法学を学び市民法の博士号を取得後帰国した。最初は政治家、もしくは外交官を目指していたようであるが、おそらく日本の官界というものになじめなかつたのであろう、当時、首相になつていた父正義の私設秘書官を勤めたあとは、実業界に出る。なお、最近彼の留学費用はすべて川崎造船所を起こした川崎正造が出していたことがわかっている。それは年間6,000ドルから8,000ドルにも及び、当時の円にすれば大変な金額であった。

明治29年（1896）川崎造船所がさらに大きく発展するために株式会社組織にした際、幸次郎はその社長として招かれ、彼は期待に応えてこの造船所を明治末年までに三菱長崎造船所に次ぐ日本第2の地位にまで押し上げるとともに、更に車両、製鉄、飛行機と事業を拡大した。また神戸新聞の社長、神戸商業會議所の会頭としても活躍、特に第一次世界大戦ではいち早くその開戦を予測し、ストック・ボートという既製貨物船を次々に進水させ、それを連合軍に売り捌いて巨額の利益を生み出した。その際に得た個人資産から松方コレクションが産まれることになるのである。

戦争の行方を見定めるとともに完成した船を売るため、社長室をロンドンに移した彼は1916年鈴木商店のロンドン支店の隣室に隣取つた。午後の散歩の折、ふと見かけて買った造船所の絵が絵画蒐集のきっかけになったという。作者のブランディングは當時東洋美術にも造詣の深い有名な画家であった。親交を結んだ彼やロンドンの作家たちから日本の浮世絵の評価が大変高いことを聞いて驚いたのものこの頃である。にも関わらず日本にまとまつた浮世絵コレクションがないことを知り、買戻し



<上>ゴッホ「ばら」油彩
<下>ルノワール「アルジェリア風のパリの女たち」油彩
<左>ピカソ「読書する婦人」油彩

尚、この「松方コレクション展」は11月26日（日）まで神戸市立博物館で開かれている。

を始める一方、西洋美術品の蒐集も開始した。彼が一旦帰国する1918年8月までの間に集めたのは西洋美術作品1000点以上とヴェヴェール・コレクションを中心とする浮世絵8213枚。このヴェヴェール・コレクションを手に入れるために仲にはいった山中商会の岡田友次は現金10万ポンドを体に巻きつけて、ドイツのUBボートが暴れていたドーバー海峡を危険をおかして渡ったという。これらの作品は戦後、航路の安全が確かめられた1919年5月から29回に分けて日本郵船の船で日本に運ばれた。総額52万ポンド、275ケース。これらは川崎造船所の地下の倉庫に入れられた。

次回（1920～22年）ヨーロッパを訪れた幸次郎の買い方はさらに加熱する。その裏にはドイツの潜水艦の設計図の入手という海軍の秘密の依頼があり、幸次郎の陽動作戦ともいえることも可能であるが、当時のジャーナリズムは東洋の大コレクターとしてもてはやし、その名聲はアメリカにまでおよんだ。購入先はパリの画廊を中心にイギリスやドイツ・北欧にまで亘り、なかでもモネから直接買った18枚の絵や矢代幸雄が書きとめたルノワールの「アルジェリア風の女たち」やゴッホの「アルルの寝室」はコレクションの中の頂点をなす。そして日本に送られたわずかの作品を除いて、その殆どはロダン美術館とロンドンのバンテクニカン倉庫に預けられた。先に送った275ケースだけで川崎造船所の地下の倉庫が溢れ、置くところがなかったからである。

幸次郎はこれらの作品を美術館の中に収めて広く公衆に公開しようとした、ブラングインに設計図を依頼していた。その名を共楽美術館といい、父正義の東京麻布の仙台坂を用地とすることも決めていた（最初は神戸に建設を考えていたらしい）。絵画は中庭を持つ約6000平米の本館に、工芸品は別館に収められ、そこにブラングインのアトリエもそつくり運ばれてくる予定であった。本館と工芸館との間には美しい日本庭園があり、広い敷地内には樹木を数多く残し、富士の借景を得て美術を包

む空間まで考えられた美術館になっていた（当該展ではこの模型も展示されている）。

しかし関東大震災を引金とする昭和の金融恐慌は幸次郎の夢を打ち碎いた。主要取引銀行であつた十五銀行の休業により彼のコレクションは当銀行の担保に入り、昭和3年から順次売り立てられていく。銀行から一括宮内省に献上された浮世絵を除いて、国内に持ち込まれたものは完全に散佚した。ロンドンに置いた作品は1939年火災により焼失、ブラングインの傑作をはじめ、英國美術や家具など約400点が灰となる。パリに残された作品約400点は第二次大戦後敵性資産としてフランス政府が没収、講和条約のあと寄贈というかたちで国宝クラスの絵を残し、371点が日本に返還された。その際建てられたのが国立西洋美術館である。



松方幸次郎氏の夢でもあった共楽美術館。その模型を前にライシャワー夫妻。

■幸次郎の目指したもの



<右>ドガ「カードを手にするメアリー・カサット」油彩



<左>リュイス「後宮（ハーレム）」水彩

松方コレクションについては現在毀譽褒貶あいなばかり。むしろ現在は否定的な意見の方が強くなっているといつてよいだろう。その場合に欠落しているのは幸次郎が絵画を輸入しようとした意図である。彼が西洋美術を輸入しようとした時代は西洋美術史の一般的理解もない時代であったことは注意するべきであろう。幸次郎のまず目指したもののは美術のみならず西洋の文化空間の移入だったのではないか。いわば今日でいえば民族学的な視座であり、従つて家具350点や綴織17点、カーテンまでコレクションの中に含まれているのだし、当代の歐米を紹介するわけであるから、当時一般大衆が好んだアマン・ジャン・ヤルバージュなどの作家がはいっているのも不思議ではない。単に名画コレクションとみるのには早計に過ぎよう。また百歩譲つて玉石混淆の絵画コレクションとみても、ルノワールの「アルジェリア風のパリの女たち」一つをとつてみればよい。これだけのクラスの絵は戦後将来されとはいひないし、買おうにも市場などにはもう出てこないだろう。関西を中心につつて日本に存在し、戦後財産税などで海外へ流出していくセザンヌやモネ、シスレー、ゴーギャン作品などを考えれば、日本が持った最初で最後の大コレクションであるといつて過言ではあるまい。

また幸次郎はこれらのコレクションを私する気持ちが全く無かつた男であった。その実業家としての態度を思う時、現在の目先の利益しか考えることのできない経営者や投資のためのコレクションの横行を何とみればよいのであろうか。

幸次郎の夢は叶わなかつたものの、売り立てられた作品が民間の間の西洋美術の普及の一助となり、浮世絵はそつくり残り、コレクションの一部が国立西洋美術館の母胎になったことを思つて、彼の靈を少し慰めるしかないようと思われる。

特集/美術の秋<II>
世界の至宝

ゴヤと バルセロナの 巨匠たち



ゴヤ<ホベリャーノスの肖像>

木下 直之
兵庫県立近代美術館 学芸員

11月11日(土)から12月26日(火)まで、北野にあるギャラリー「White House」で「ゴヤとバルセロナの巨匠たち」が開かれる。昨年、さんちかの主催した「モード・スト・クシャー展」を機にして、スペイン・バルセロナから、神戸の人々にバルセロナの画家達の作品を見てもらいたいとの要望が実現したものである。

この展覧会に関わり、バルセロナの画家達に詳しい、県立近代美術館の木下直之さんにお話を伺った。

■ 18世紀末と19世紀末

今回は、ゴヤとスペイン・バルセロナ地方で活躍した画家達9人15点の作品を展示していますが、二部構成と見ていただいて良いと思います。第一部はゴヤ。そして第二部が、その100年後の画家、カサス、ピカソ、ミロ、ダリから現代に至る変遷です。

ゴヤの作品は、高さ2mもの大きなもので「ホベリヤーノスの肖像」という、ゴヤと交遊のあった政治家の肖像画で、一度日本で公開されたことがあります。一七八四年から八五年ごろに制作された比較的初期の作品です。バルセロナの個人コレクターの所蔵で、今回の展覧会につなげとなりました。

■ 「四匹の猫」のパリスタイル

19世紀後半から、内戦までのスペインは、産業が発展し、とりわけ、バルセロナを中心とするカタルニア地方では、文化運動が盛んとなりました。その時、ルシニョール、カサスは、パリからバルセロナへ、パリの芸術家たちのライフスタイルを持ち帰りました。つまり、カフェにたむろし、自由に芸術論を闘わせ、カフェで個展を開くというスタイルです。その拠点の溜り場となつたのが「四匹の猫」というカフェでした。バルセロナの芸術家の典型的となつたピカソは、10代の後半にその先輩カサス達に接し、画家への想いを熱くするのです。カフェで、カサス達の議論に刺激され、パリへ行こうと決意する。その頃周囲の人々を描いたデッサンが、今回出品されています。いろいろな人と交遊を持ちながら、パリにあこがれる若き日のピカソを見る事ができます。彼が

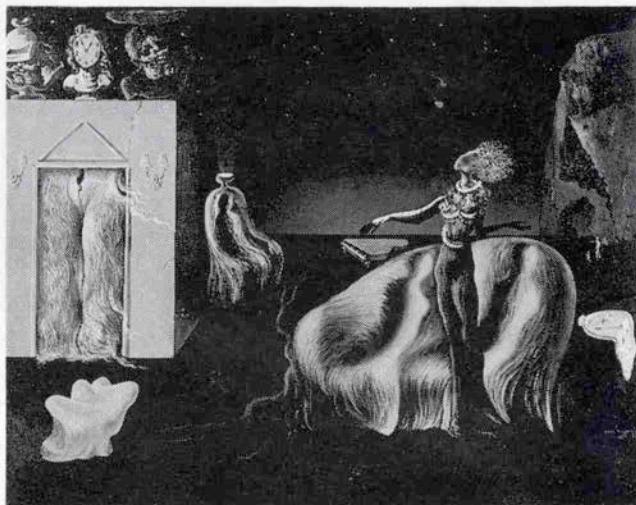
最初の個展を開いたのも「四匹の猫」でした。そのカフェを通じて、新しい芸術の在り方を開いていった時期でもありました。ピカソから10年ずつ置いて、ミロ、ダリ、がいるのですが、この3人のデビューや仕方はよく似ています。というのも、ミロはピカソを追うようにパリへ出て行きますし、ダリは最初パリへ行った時ピカソを訪ね、二度目にはミロを頼つたからです。現在ダリはシュラレアリズムの代表のようにいわれています。1920年代、パリを中心として盛んになつたこの新しい芸術運動、理性だけでは追求できないもの、夢の世界、非合理的な世界へ目を向けるというシュラレアリズムを、ダリはミロを通じて学んだのです。

■ カタルニア前衛芸術の伝統

ピカソ達が活躍している時、スペインでは内戦が起り、フランコ将軍が勝利を收めました。スペインは文化的に破壊され、ファシストが統治し弾圧したので、自由な芸術活動は停止してしまいました。ピカソは内戦後一度とスペインへは戻ろうとはしなかつたのですが、ミロはすぐに帰りマジョルカ島とバルセロナにアトリエを置き、カタルニアで活動をしたのです。押さえられた時代の中、ジョアン・ポンス、モデスト・クシャーが1948年頃から活動を始め、文学者達をも含めたグループ、ダウ・アル・セットを作りました。雑誌をも発行する前衛運動の闘士達でした。彼達が目標としたのが、ミロだ



ピカソ<ルシニョール像>



ダリ<特異なものたち>

今回の展覧会の中で、ピカソのピカソらしい油絵を想像して見ると、少し意外かもしませんが、スケッチ2点は、画家への夢を抱いた多感な時期の作品として見るのも好意的であつたり、それがまた、演技ともどられ、一筋縄では行かない、とらえどころのない人物でした。彼もまた戦後はカタルニアに戻りました。

この展覧会を通して、ゴヤと、19世紀末バルセロナの若い画家達のグループ、といううスペイン美術の二つの高揚期に接することができるでしょう。

この展覧会を通して、ゴヤと、19世紀末バルセロナの若い画家達のグループ、といううスペイン美術の二つの高揚期に接することができるでしょう。

Friendship
in Kobe

□山手インターナショナルアカデミー

太平洋を越えて 友情を暖め合う



右上／お茶に初挑戦の夫妻 左上／皆が注目 下／再会を喜び友情を暖め合う

★深まる国際交流
神戸山手インターナショナルアカデミーでは、アメリカ・シアトルの州立ワシントン大学と提携して、毎年7月に約一ヶ月間の海外研修を行っている。

この研修で三年間「英会話」の授業を担当したロブさんとクリスティンさんの夫婦が、初来日し同校を訪れた。

夫妻は4月に結婚したばかりのカップルで、今回は新婚旅行を兼ねての来日となつた。

「出来ればずっと、日本に住みたい」と言うほど大の日本びいきの夫妻は、再会を喜ぶ教え子たちとディスカッションを楽しんだり、茶道にも挑戦したり懐旧を暖め合っていた。

今回の滞在では、大阪の企業数社で「英会話」を一年間教える予定となつていて。

同研修に尽力している砂原規子副校長は「單なる語学研修で終るのではなく、こういった形で友好を深め合うことも重要なことだと思っていますので、夫妻の滞日中はいろいろと協力してあげたいですね」と語っている。

神戸山手インターナショナルアカデミー（神戸山手学園姉妹校）〒650 神戸市中央区山本通5丁目

電話 078-351-2664(代)
9番15号

「神戸の空の下 ジャズは流れる」

音で語る神戸のジャズの歴史

構成・演出：末広光夫

出演：秋吉敏子 (Pf) 尾田 悟 (T.Sax)

キャンディー溝田 (Vo)

ロイヤルフラッシュジャズバンド 他

11/18 (SAT)

じかん・開場18:00 開演19:00～

料金・¥2,000



ジャズに包まれた素敵な2日間。

HISTORY OF Jazz IN XEBEC



秋吉敏子

スペシャル・セッション

ルー・タバキン (T.Sax)

鈴木 良雄 (Bass)

日野 元彦 (Drs)

11/19 (SUN)

じかん・開場17:00 開演18:00～

料金・¥4,000

神戸ポートアイランド・ジーベックホール

*お問い合わせ：ジーベック・ホール (07) 303-5600代 / チケット・ぴあ (06) 363-9999
チケット・セゾン (06) 308-9999 / プレイガイド21 (06) 251-9999

ヒストリー・オブ
ジャズ・イン・ジーベック
インフォメーション

11/18・19

XEBEC STUDIO フリー・ライブ

ジーベックスタジオを
解放した自由気ままな
ライブスペース。ブレ
イナーも観客も気軽に
参加できます。

時間／12:00～18:00
(無料)

XEBEC パフォーマンス

海外からやってきた大
道芸のパフォーマー達
が玄関前広場にて熱演

◎フルース・スマス (オーストラリア)
◎コム・ラーガー (アイルランド)

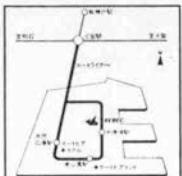
時間／11:00～18:00
(無料)

ジャズレコード 大バザール

ロビー、ホワイエでは
“珍盤” “貴重盤” “な
つかしの名盤”が勢揃
い。中古・輸入レコー
ド大放出！

協力：BIG PINK

時間／10:00～20:00



* 三宮よりタクシーにて約15分

※ 駐車場：ジーベック

〒650 神戸市中央区港島中町7-2-1

TEL (078) 303-5600